

大崎短歌会

兼題『おせち・自由』

店先のお節は2万5千円

足早に過ぐ晦日の朝

折おせち神棚に置き千両も

新年彩り無病祈願す

本後淑子

川崎健一



雑煮食む幸せな時を励みとし
残り世生きん笑顔を添えて
あら玉の安らかなりを重箱に
お節数々思ひは深し

年瀬に食材求め店巡り
豪華絢爛迷いしお節
庭先の日溜りに咲く黄な花は
今は盛りの石蕗の花

何となく父母に会いたい年の暮れ
今日の二回目墓に参りぬ

坂元つる子

井上かず子
山下海征
川崎健一
本後淑子
上南紀子
穂園芳江

一升餅ち 一生を願ごつ 背負わせつ
(唱) 餅ち将来く頼だ 重びばつ頑張れ

雜煮餅つ 総入歯ゆ外じつ 齒茎で食つ
(唱) 歯を盜つじ 外せた方が良

餅つ炙つ 自分も温もい 股火鉢
(唱) 餅も炙れつ 一石二鳥

井上三ちゃん

上村牛歩
上南紀子
穂園芳江
上村牛歩
上南紀子
穂園芳江

二見愚楽満
上村牛歩
上南紀子
穂園芳江

餅ちゅば食つ 今年も減らん 腹回い
(唱) 餅ちゅ張い付けた よな腹れしなつ

餅ちゅば食つ 今年も減らん 腹回い
(唱) 餅ちゅ張い付けた よな腹れしなつ

餅の説教 餅ちゅ食た程ん 効つ目あつ
(唱) こんこん諭し 爺様め納得

餅搗きな 都会かい手伝い 凄ぜ弾ん
(唱) 手伝いなつたい 邪魔ぎなつたい

西ノ園ひらり
長重リリ一

心配らしち 餅つ選い除けた 正月料理
(唱) ひつかくつでち 家族中心配焼つ
餅も買つ 楽な正月の 世いけなつ
(唱) 正月も氣樂 平常と変わらん
遠矢酌多

上窪小絵

おせちには必ず加える昆布巻
亡母と作りし遠き日偲ぶ
ばあちゃんのおせち懐かしリュック背負ひ
ひたに待ちいる孫は町育ち

穂園芳江

炙い餅つ 黒炭みなけた 長げ電話
(唱) 何時迄い語つ ちよいかち亭主
棟上げん 餅ちや見いもせじ 金ぬ拾るつ
(唱) 金ぬ目掛けつ すばしけ子供
満石うらら

北村虎王

北

村

虎

王